

## 再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：川崎 茂信

<b>事業名</b> 一般国道175号 <small>かんて</small> 神出バイパス	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 近畿地方整備局
<b>起終点</b> 自：兵庫県神戸市西区平野町常本 至：兵庫県神戸市西区神出町小束野		<b>延長</b> 5.7km
<b>事業概要</b> 一般国道175号は、兵庫県明石市を起点に、京都府舞鶴市に至る総延長約130kmの主要幹線道路であり、瀬戸内海臨海工業地帯と舞鶴港を南北に結び、中国縦貫自動車道、山陽自動車道や第二神明道路などを相互に結ぶ重要な役割を果たしている。 神出バイパスは、神戸市西部における交通混雑の緩和、交通安全の確保を目的とした道路である。		
S61年度事業化	S58年度都市計画決定	S61年度用地着手
		H5年度工事着手
<b>全体事業費</b>	224億円	<b>事業進捗率</b>
		約74%
		<b>供用済延長</b>
		5.1km
<b>計画交通量</b>	32,000台/日	
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b> (事業全体) 2.3 (残事業) 5.4	<b>総費用</b> (残事業)/(事業全体) 74/306億円 事業費：49/276億円 維持管理費：25/30億円
	<b>総便益</b> (残事業)/(事業全体) 401/717億円 走行時間短縮便益：310/628億円 走行経費減少便益：62/70億円 交通事故減少便益：28/19億円	<b>基準年</b> 平成25年
<b>感度分析の結果</b> 【事業全体】交通量：B/C=1.9～2.9(交通量 ±10%) 事業費：B/C=2.3～2.4(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=2.3～2.4(事業期間±20%) 【残事業】交通量：B/C=4.5～6.2(交通量 ±10%) 事業費：B/C=5.1～5.8(事業費 ±10%) 事業期間：B/C=5.3～5.6(事業期間±20%)		
<b>事業の効果等</b>		
①交通混雑の緩和 ・神出バイパス部分供用に伴い、現道の国道175号の田井・老ノ口交差点の渋滞が解消し、旅行速度は向上しており、残る区間の整備により田井南交差点以南の交通混雑の緩和が期待される。		
②交通安全の確保 ・国道175号（事業区間の現道）の約8割に歩道がなく、自転車・歩行者の安全確保が課題となっており残る区間の整備により、通過交通が神出バイパスに転換することで、交通混雑の緩和による事故減少や自転車・歩行者の安全性の向上が期待される。		
③地域の活性化 ・臨海部の都市圏と北播磨地域を結ぶ国道175号を整備することにより、アクセス性が向上され、観光入込客数は増加傾向となっており、神出バイパスを整備することにより、移動時間短縮効果による観光入込客数の増大が見込まれ、地域の活性化に寄与することが期待される。		
④高度医療施設へのアクセス向上 ・三木市～兵庫県立災害医療センターへの所用時間が短縮。(51分→46分)		
⑤新幹線駅へのアクセス向上 ・三木市～JR西明石駅への所要時間が短縮。(37分→32分)		
⑥空港へのアクセス向上 ・三木市～神戸空港への所要時間が短縮。(57分→51分)		
⑦重要港湾へのアクセス向上 ・三木市～東播磨港への所要時間が短縮。(67分→62分)		
⑧主要な観光施設へのアクセス向上 ・沿線へのアクセス性向上により、観光客の増加が期待される。 (王子動物園：観光入込客数 約128万人/年、須磨海浜水族園：観光入込客数 約110万人/年)		

関係する地方公共団体等の意見

神戸市長の意見

国道175号は、明石市臨海部から企業集積が進む神戸市北西部までを南北に通過し、さらに三木市や小野市など兵庫県内陸部をつなぐ重要な幹線道路です。

その中でも、神出バイパスは神戸市西部地域の経済活動や、災害時の緊急輸送道路、安全な交通の確保など、市民生活を支える上で必要な事業です。

ネットワーク機能を十分に発揮するために、未整備区間である0.6kmについて事業を完了させ、全線を繋ぐ必要があると考えます。

また、事業効果を更に高めるため、暫定2車線で供用されている区間4.2kmの4車線化も、あわせて必要であると考えます。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、「一般国道175号神出バイパス」の再評価は、当委員会に提出された資料、説明の範囲において、おおむね適切に進められており、対応方針(原案)のとおり「事業継続」でよいと判断される。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

神出バイパス区間が通過する神戸市西区の人口や自動車保有台数の伸びは増加傾向。

事業の進捗状況、残事業の内容等

現在までに0.9km(完成4車線)開通済み、4.2km(暫定2車線)開通済み、用地進捗率：約89%、事業進捗率：約74%

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き事業を推進し、早期の供用を目指す。

施設の構造や工法の変更等

事業実施にあたり、新技術・新工法の活用等によりコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

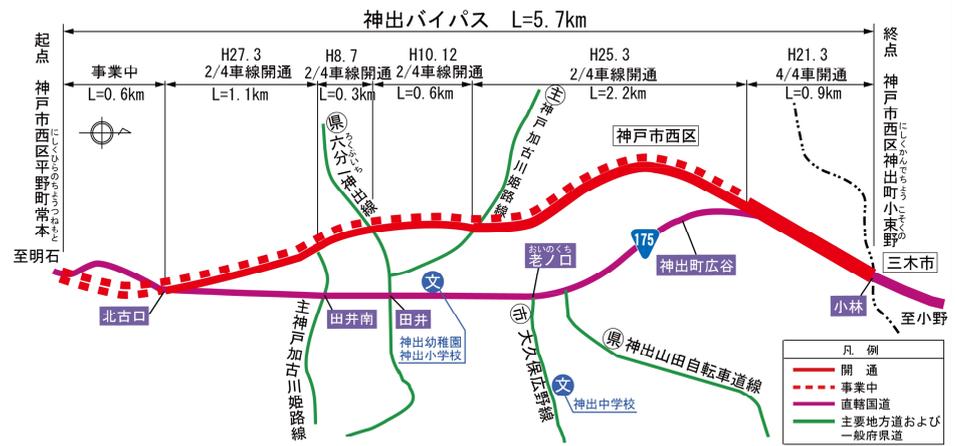
以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図

【位置図】



【概要図】



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。